

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570101339
法人名	医療法人社団仁和会
事業所名	むつみ苑グループホーム平和ヶ丘
所在地	宮崎市池内町前吾田1096 (電話) 0985-30-2855

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成 22 年 3 月 30 日

【情報提供票より】(22年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,210 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.8 歳	最低 75 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内病院 小村歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は住宅街の閑静な場所に老人保健施設を母体として、グループホーム池内の家と隣接している。管理者、職員は利用者とともに『365日、笑顔をやすことなく、おだやかに暮らせるように』と理念の実現に向けて取り組んでいる。家族の差し入れの竹の子の利用者と職員は楽しそうに、皮をむき、湯がき方を利用者に教えて貰っている。また、お客にお茶を出すおもてなしなどを通して、職員は利用者の得意とする能力を支援し、和気合いあいに暮らしている。さらに、音楽療法や訪問歯科診療、訪問看護、訪問美容室などの多機能性を活かした支援も行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回の評価において改善課題はない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	管理者と職員は自己評価、外部評価の意義とねらいについてミーティングや会議の中で話し合い各自で分担して取り組んでいる。自己評価を行うことによって職員のスキルアップに繋がりが、サービスの質向上に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は、地区の民生委員、地域包括支援センター職員、福祉協力委員、地域のグループホーム職員、家族代表、管理者、職員が出席して、2か月に1回開催している。主に事業所からの報告や協力依頼などが会議の内容であるが、そこで出された意見や意向についてはサービスの質向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	面会時の会話の中で意見や不満の言いやすい関係づくりを大切にしている。出された意見や苦情については、管理者、職員で話し合い対応策を立てて、家族に説明をしている。また、それらを運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	近隣の住民から野菜や花を戴いたり、コスモスの時期に声を掛けてもらって花見に出かけるなどの交流は得られているが、地域の行事に参加したり、事業所の行事に地域の住民が参加するなどの相互交流が充分とは言えない。今後の取り組みに期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『365日笑顔』利用者はもちろん職員も共に笑顔で、地域のなかでゆったり、おだやかに暮らし続けられるように理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎日のミーティングや職員会議の中で理念について共有し日々のケアの中で理念を実践できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の住民から野菜やお花などを戴いたり、コスモスの時期に声を掛けてもらって花見に出かけるなどの交流は得られているが、地域の行事などに参加したり、ホームの行事に地域住民が参加するなどの相互交流の機会が少ない。	○	地域の人々と利用者が楽しく相互交流が得られるように検討してほしい。
そうご					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は自己評価、外部評価の意義とねらいについて話し合い各自で分担して取り組んでいる。自己評価を行うことによって職員のスキルアップにつながり、サービスの質向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地区民生委員、地域包括支援センター職員、福祉協力委員、地域のグループホーム職員、家族代表、管理者、職員が出席して2か月に1回開催している。主に事業所からの報告や協力依頼等が会議内容であるがそこで出された意見や意向についてはサービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村主催の会議や研修会について積極的に参加しサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に暮らしぶりや健康状態について報告している。金銭管理についても出納帳で管理し定期的に家族に報告している。	○	面会の少ない家族も居られるようなので、生活ぶりなどを利用者の家族に対して、ホーム便りを発行できないか検討してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の会話の中で意見や不満の言いやすい関係作りを大切にしている。出された意見や苦情については管理者、職員で話し合い、対応策を立てて家族に説明している。また、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように職員の異動は行なわない方針である。離職の場合には管理者は他の職員で利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を段階に応じて育成するための教育計画を立てて法人内外の研修に参加している。研修復命書で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修に積極的に参加し交流している。また、同地域のグループホームと運営推進会議に出席するなど相互訪問などの活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とともに見学に来てもらったりして何度か面接を行い利用者と顔見知りの関係を築いてからの利用になるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から竹の子の湯がき方や、季節の料理方法を教えてもらったり、漢字やことわざなどを習ったり、体操や散歩を一緒に行なうなど利用者と喜怒哀楽をともにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の情報の中から、また、毎日のケアの中から利用者の思いや意向を把握している。墓参りや、外泊など希望に沿った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本意の介護計画作成に向け、担当職員、支援専門員、管理者であらかじめ検討した上で全体の検討や家族本人を交えた検討会と段階的に話をすすめ、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直しと状態に変化の起きた時はその都度の見直しを行ない、利用者本意に、家族と話し合いながら計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1か月に2回の音楽療法や、訪問歯科診療、訪問看護、訪問美容室など利用者や家族の要望に応じた支援をしている。また、併設の通所施設の習字教室の利用など多彩な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医を優先させて支援している。事業所の生活ぶりや様子などの情報提供を行い、かかりつけ医と良好な関係を築きながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に終末時の方針について話し合い、かかりつけ医や利用者の家族と管理者、職員で方針を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの個人を尊重した言葉かけをおこない笑顔で対応している。特にトイレの誘導や入浴の支援ではプライバシーに配慮した支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先させるのではなく、利用者の体調などを考慮した支援や、近くのスーパーまでの買い物や喫茶店などに出かけたりと一人ひとりの希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に喜んでもらえるように献立や盛り付けに工夫を凝らした美味しい食事の支援がされている。利用者と職員は同じテーブルで和やかに一緒にの食事を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴と入浴のない日には清拭の支援を行っているが利用者の希望に応じて毎日の入浴も可能である。ゆったりと楽しんで入浴してもらえるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの持っている力に合わせてテーブル拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみなどの家事の手伝いの役割や、小物作り、散歩やレクリエーションなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は事業所の近くを散歩をしたり、近所のスーパーまで買い物に出かけたり、喫茶店に出かけたりと希望に沿って戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の不穏行動のある時、入浴介助などで職員の目の届かない場合に限り、やむを得ず鍵をかけることもあるが管理者、職員は鍵をかけることの弊害を十分に理解しており一時的でその後は開放している。		鍵をかけないで生活できるケアの取り組みをさらに今後も続けてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し防災訓練は年2回実施している。地域の民生委員の参加が得られている。平成22年度に夜間の避難訓練を地域の住民にも呼びかけて実施する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を把握して記録している。栄養のバランスについては管理栄養士にアドバイスを貰っている。また、体重のチェックも定期的実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は掃除が行き届き清潔感がある。和室のリビングには障子があり、利用者にとって違和感のない落ち着いた雰囲気のなかで、大きなソファに利用者はゆったりと腰掛けて思い思いに過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の使い慣れた家具や小物、家族の写真や仏壇などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫をしている。		